

## 農学委員会 農学分科会（第21期・第2回）議事要旨

日 時：平成21年4月16日（木）15：00～17：00

場 所：日本学術会議5階 5-C（2）会議室

出席者：一井、上田、大杉、奥野、三枝、白石、杉浦、武田、柘植、夏秋、野並、桃木、  
矢澤、小川（事務局）

欠席者：伊藤、高垣、中西、森田

### 議 題

- （1）前回分科会の議事要旨の承認について
- （2）有機農業関連ヒアリング
- （3）21期における農学分科会の活動について
- （4）その他

### 資 料

- 資料1 議事要旨（第21期第1回）
- 資料2 公開シンポジウム「食育の現状と大学附属農場等の果たすべき役割 II」
- 資料3 「日本の展望」に関する農学分科会としての重要課題
- 資料4 発表資料〔1〕「有機農業推進に関する施策について」  
農林水産技術会議事務局研究開発官（食料戦略）研究調整官・柴田道夫
- 資料5 発表資料〔2〕「有機農業推進に関する研究の取り組みについて」  
農研機構中央農業総合研究センター研究管理監・木村武
- 資料6 農学分科会名簿

### 議 事：

1. 議事要旨（第21期・第1回）が承認された。【資料1】
2. 2題の有機農業関連ヒアリングを行った。発表は、〔1〕農林水産技術会議事務局研究開発官（食料戦略）研究調整官・柴田道夫先生による「有機農業推進に関する施策について」、および〔2〕農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター研究管理監・木村武先生による「有機農業推進に関する研究の取り組みについて」であった。
3. スライドおよび資料に基づき【資料4】、〔1〕「有機農業推進に関する施策について」の発表では、有機農業をめぐる現状の説明の後、「有機農業の推進に関する法律（平成18年法律第112号）」の説明があり、理念および定義についての解説があった。さらに、有機農業の推進計画は平成19年度からおおむね5年間を対象とし、技術

体系の確立や普及指導体制の整備、消費者の理解の増進、農業者が有機農業に積極的に取り組めるようにするための条件整備に重点を置いていること、推進体制は全都道府県と50%以上の市町村が対象とされることが説明された。

4. スライドおよび資料に基づき【資料5】、〔2〕「有機農業推進に関する研究の取り組みについて」の発表では、農研機構における有機農業のあり方に関する検討ワーキンググループについての説明があり、交付金プロジェクト「日本型有機農業」(H20～H24)と委託プロジェクト「省資源」(H21～H25)について説明があった。
5. 発表の後、有機農業についての質問および意見交換がなされた。有機農業の科学的な定義などについて議論がなされ、また、遺伝子組換え作物、植物工場、有畜農業、消費者の立場、温暖化などに関連した議論も出された。農学分科会として有機農業について考え、「農学」を再検討する良い機会と捉えて、「有機農業」と「農学」について議論することとした。
6. 日本の展望委員会から「日本の展望」についてまとめられた資料がメールで配信されるため、そのときに農学委員会の意見を「日本の展望」に反映するようにする予定である。農学分科会から提出した「日本の展望」に関するメモ【資料3】に関する意見を分科会委員で再検討することとし、必要に応じて大杉委員長が取りまとめることとした。
7. 第3回分科会を5月8日午前を開催し、午後には全国大学附属農場協議会との共催で食育関連の公開シンポジウム【資料2】を日本学術会議で開催することとした。

以上